キャンパスフェスタ in 静岡

ピアノとウェルビーイング研究所企画2026

俳句から音楽へ

連歌的芸術エネルギー変換の試み

2026年11月1日（日）14:30〜

静岡大学 静岡キャンパス

共通教育B棟301教室



司会　安永 愛

静岡大学ピアノとウェルビーイング研究所 所長

プログラム

1　はじめに

2　連作俳句「緩歩動物クマムシ」披講

竹内一犀 作

3　ピアノ組曲「緩歩動物クマムシ」

長谷川慶岳 作曲

4　歌曲集「緩歩動物クマムシ」

竹内一犀の俳句を歌詞として
音楽生成AI「Suno」により制作

5　前衛水墨画「可」による作曲

竹内巴紅 画 ／ 長谷川慶岳 作曲

「緩歩動物クマムシ」に寄せて

竹内一犀

今年の７月に、安永先生より「クマムシ」の俳句を作れますかとのお尋ねがきっかけです。見たことも聞いたことも無かった季語には非ざる「ムシ」で、私にとっては「バーチャル」な兼題でした。過去に私は浜松の中田島砂丘にて子供達と共に早朝の赤海亀の保護活動を2年間行い、一般には見る事ができないものを見たという原体験がありましたので、「クマムシ」の「バーチャル」が「原体験」として結実し、春夏秋冬や生死の往還等における昇華を得る事ができたのかも知れません。「クマムシ」の四季の変容を謳いつつ、翻る緩歩の踊りの転調により覚醒を求めながら、「クマムシ」に導かれる「さ、あれど未来」への緩歩の鼓笛隊を思い描いたものです。

（たけうち いっさい 俳人。金子兜太門下。静岡大学工学部卒業生）

俳句から音楽へ

長谷川慶岳

この度、クマムシを題材とした俳句からインスピレーションを得て音楽を作るという貴重な機会をいただきました。

昨今音楽の作り方は様々ですが、今回は俳句をChatGPTに読み込ませてその解釈と音楽作りのヒントを生成させ、それらを手がかりとして、パソコンとつながったデジタルピアノで私自身が即興演奏したものを記録する、という手法をとりました。「AIと人間のコラボによる作曲」、と言っては少し大袈裟かもしれませんが、従来の孤独な作業と比較して格段にスムーズに作曲ができました。

さらにChatGPTの生成したプロンプトを用いて音楽生成AI「Suno」に俳句を歌詞とした歌曲を生成させました。

今後のクリエイティブにおいて、人間とAIの境目がどんどんなくなっていくことが予想されます。そんな新しい時代の息吹を感じていただけたら幸いです。

（はせがわ よしたか 静岡大学教育学部教授）